

第8回「ふくまる夢たまごセミナー」＜閉塾式＞

日 時 2月18日（金）18：00～20：00 ※オンラインで実施

内 容 ○閉塾式

教育委員会挨拶（田渕教育長）

○記念講演

演題：「子どもの『今』を見つめる～これからの先生に期待すること～」

講師：明石一朗 氏（関西外国語大学教授 人権教育思想研究所長）

2月18日、今年度の「ふくまる教志塾」の閉塾式及び「ふくまる夢たまごセミナー」の最終日を迎えました。11期生は、途中入塾者を含め20名（現場実習生18名、聴講生2名）で終えることができました。

閉塾式では、田渕教育長より塾生の皆さんに1年間のねぎらいと励ましの言葉を次のようにかけていただきました。

【教育長あいさつ】

今年のふくまる教志塾は、新型コロナウイルス感染症の影響により、現場実習の開始が遅れ、ふくまる夢たまごセミナーは、実に半分以上の講座が本日のようなオンライン開催を余儀なくされました。そのような中でも、皆さんは1年間、現場実習と教員養成講座において、しっかり学んでくれたことと思っています。1年間、本当にお疲れ様でした。（中略）

現在、60名を越える「ふくまる教志塾」出身のみなさんが、池田市の小・中・義務教育学校で教員として活躍してくれています。今年度も、豊能地区の教員採用試験に合格した「ふくまる」出身の皆さんが、池田市をはじめ豊中市や箕面市、また他の市町村で活躍されることを心から願っております。

ではみなさん、来年度も仕事に勉強にがんばってください。みなさんのがんばりを心から期待しています。

引き続き、関西外国語大学教授の明石一朗先生に「子どもの『今』を見つめる～これからの先生に期待すること～」と題してご講演をいただきました。

講演の内容は以下の通りです。

【コロナ禍における学校現場】

1. 子どもたちの状況

- ①新型コロナウイルスの影響で不安やいらだち
- ②「3密」を避けるための新しいルールに対するストレス
- ③長期の臨時休業で、家庭内で問題が生じ心身の元気を失う

2. 対応策として

- ①担任だけでなく、学校全体で情報を共有
- ②スクールカウンセラーや関係機関等と連携
- ③新型コロナウイルスに関する誤解から生じる偏見や差別、いじめにつながるような行為は特に注意する。

3. 具体的な対応として

- ①きめ細かな健康観察や健康診断等
- ②スクールソーシャルワーカーや関係機関等による支援
- ③新入生や転入生は、前年度との比較が困難なので、保護者や学校間での情報交換、引継ぎ等を綿密に行う。
- ④虐待と思われる事案を発見・見聞きした時は、抱え込まず、管理職に相談・報告し学校チームとして組織的に対応

4. 新型コロナウイルスに対する差別や偏見について

- ①特に、海外から帰国した児童生徒、外国人児童生徒、感染者、濃厚接触者とその家族、医療従事者やその家族等に対する偏見や差別を許さない。
- ②例えば、マスクをしていない、咳をしている、熱がある、医師の指示等で出席を控えているなどの児童生徒への偏見や差別が生じないように配慮等を十分に行う。
- ③「新しい生活様式」に過剰に反応し、「手を洗わない人を強く注意したり、『コロナ菌』などと発言したり」する子どもには、「みんな手を洗おう」「手を洗うことは大事だよ」などと確認し合える声かけや仲間づくりを意識させる。
- ④学級担任や養護教諭等を中心としたきめ細かな健康観察や健康相談の実施
- ⑤児童生徒の状況を的確に把握し、スクールカウンセラー等の支援

【子どもの人権を育む学校づくり】

①はじめに「教育は人なり！」

医師と教師の3つの共通点 生命・信頼・良くなるという確信

②学校は「楽校」である。

「わかる授業」＝学力向上(知育)

「友だちとつながる」＝学級集団(徳育)

「ぐっすり・しっかり・すっきり」＝健康な生活(体育)

③教師に求められる3つの力

「授業」力 「子ども理解」力 「保護者等の対応」力

④学校の力

目標の共通認識 役割の分担 指導の統一

⑤3つの「ワーク」

チームワーク フットワーク ネットワーク

⑥学級経営の3つの基本

礼を正し(あいさつ) 場を清め(清掃) 時を守る(チャイムで行動)

⑦子どもから学ぶ。

教育は、「肯定」から 褒めること、叱ること

⑧子どものやる気を育てる言葉

やる気をなくす言葉

「君にはムリや」「勝手にしなさい」「レベルが低い」

やる気の出る言葉

「あなたならきっと大丈夫」「人それぞれやから」

「先生、いつでも話を聞きます」

⑨子どもが嫌いなこと(子どもが元気をなくすこと)

頭ごなしに怒る、他の子やきょうだいと比較する

家で絶えずもめ事がある

⑩最後に

素敵な「出会い」や「ふれあい」を豊かに

くらしを通じて自分自身に引き寄せる

正しく学ぶ機会をもつ

ユーモアを交えながら具体的にお話ししていただきました。1年間のふくまる教志塾の締めくくりにふさわしいお話に、塾生一同、改めて教師という仕事の

素晴らしさと責任の重さを実感したのではないのでしょうか。



【塾生の感想より】

○今回のセミナーからは、教師としてのあるべき姿、理想とする姿を自分の中に作り上げることができたと感じます。教師として必要とされる授業力の向上に関して、私はこれまで授業を行った数に応じて向上していくと考えていましたが、それだけでは伸びしろはなく、行った授業に対する批判が必要であることを理解しました。

○明石先生は、子ども理解に努めるにあたって「家庭でのくらしを想像すること」の大切さをお話しされました。明石先生が実際に関わった子どもや保護者のエピソードに心が熱くなりました。子どもは十人十色で、様々な姿を一人ひとり見せてくれます。どうしてなんだろうと想像し、学校にいない16時間に思いを馳せることが大切だと気づきました。

○特に印象に残った言葉は、「学校は楽校である」というものです。子どもにとって、「分かること」「健康な生活」「友だちとのつながり」が大切であるということに改めて学びました。それは、保育現場においても同じだと考えます。保育現場では、机に座って「学習する」という場面はほとんどありませんが、「出来なかったことが出来るようになる」という経験を積み重ねることにより、達成感や自己肯定が得られ、楽しいと感ずることが出来るのだと思います。子どもが自

ら試行錯誤する中で得られる学びや気づきを大切に、子どもに関わっていき
たいと改めて感じました。

○今回のセミナーでは、教師として、どう子ども達と向き合っていくか、保護者
からの信頼を得るかなどのお話を、明石先生の経験からユーモアを交えながら
教えていただきました。教師に求められる力として、授業力・子ども理解力・保
護者等の対応力の3つを挙げられました。どんなことがあっても逃げたりごま
かしたりすることなく、トラブルの「さしすせそ」はいつも頭に入れて動こうと
思いました。私は4月から現場に出ます。子どもたちにとって最大の学習となる
よう、好感・共感・親近感を持ち、明るく元気で、優しくも厳しく、だれにも公
平で知的な先生になれるよう、周りにいる人から日々学び続ける教員になりた
いです。

○ふくまる教志塾や大学での学びで、子どもの背景を理解することが大切だと
分かっていたつもりでした。しかし、「16時間」という数字を聞き、子どもの
背景を理解することは、学校で過ごす倍の時間のことを意識することであると
いうことまでは理解しきれていなかったように感じました。このことは、しっか
りと意識していきたいですが、簡単にできることではないと思うので、子どもを
理解したつもりにならずに積極的かつ丁寧に子どもたちと関わり続けていき
たいと思いました。また、最後に先生がおっしゃっていた「素敵な出会いやふれあ
いを豊かに」という言葉が素敵だなと思いました。4月から教師として働くこと
に不安はありますが、素敵な出会いやふれあいがあると信じ、それらを大
切にして頑張っていきたいです。